

2025 年 1 月 30 日

報道関係各位

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

システムの稼働状況の自動分析にマルチモーダル AI を活用 システム開発、運用現場のオブザーバビリティを強化し、異常検知や傾向分析の自動化を実現

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社(代表取締役社長:新宮 達史、本社:東京都港区、略称:CTC)は、システム運用における情報収集・連携を効率化し、オブザーバビリティ(可観測性)の強化につながるクラウドサービス「StageCrew™(ステージ・クルー、旧名 PITWALL®)」に、システムの稼働状況を自動で分析する新機能を追加しました。画像、テキストなど異なる種類のデータを扱う最先端のマルチモーダル AI を活用して、異常検知やパフォーマンスの傾向分析などの業務を自動化します。年間 480 万円(税抜き)で、システム開発、運用チームが一体となって、システムを運用しながらサービスの開発を行う DevOps に取り組む日本国内および北米の企業を中心に展開し、3 年間で 50 件の受注を目指します。

併せて、マルチモーダル AI を効果的に活用するためのプロンプトの最適化をはじめとした、導入後の運用支援サービスの提供も開始します。

近年、システムの状況をリアルタイムに可視化して安定稼働につなげる「オブザーバビリティ」という概念が注目されています。しかし、システムの細分化や多様化に伴い、監視、ログ収集などの運用管理ツールも多岐にわたる場合が多く、情報収集や原因の特定に時間を要するため、運用の効率化、省人化に繋がる仕組みが求められています。

StageCrew™は、システム監視やログ収集を担う各種ツールと連携し、情報収集の効率化やインシデント発生時の対応フローの可視化などにより、オブザーバビリティの向上を実現する CTC が独自に開発したクラウドサービスです。

今回新たに、管理ツールごとに収集、可視化しているダッシュボードデータなどを、マルチモーダル AI が自動で統合、分析する機能を追加しました。トラフィックの増減やエラーの発生回数など、複数の管理ツールを横断して比較・分析して、迅速にシステムの稼働状況を把握できます。例えば、アクセスが集中している API の特定、データベースの使用率と性能の傾向の分析などを指示するプロンプト(分析のための質問文)を入力することで、システムの過去データとの比較や、類似する事象の抽出を自動で行い、障害発生時の迅速な原因特定や将来的なリスクへの対策が可能になります。

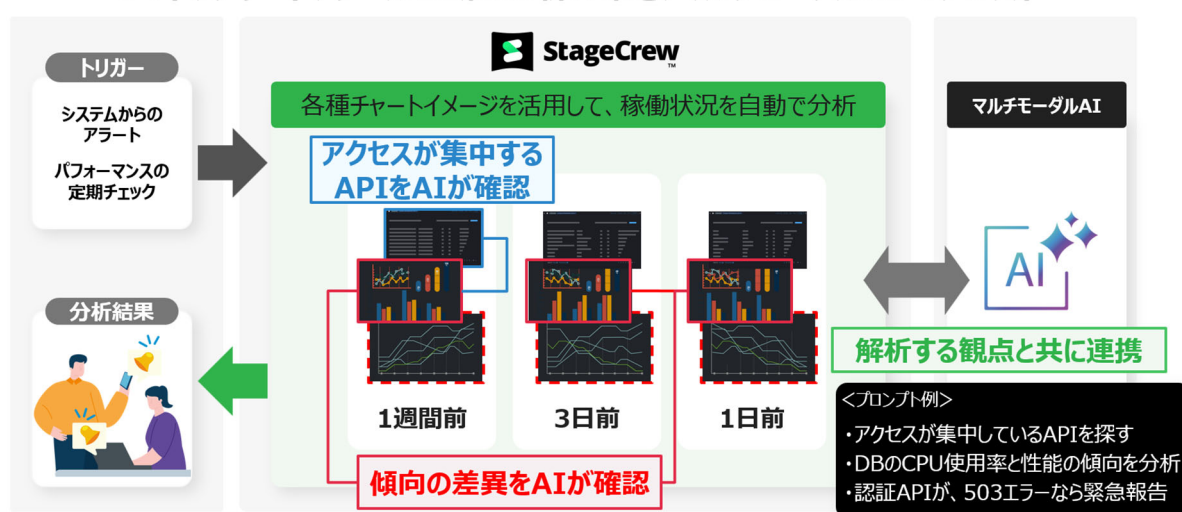
導入後の運用支援サービスでは、管理ツールの追加や変更に伴うシステムの設定変更、AI のプロンプトの最適化などを行います。プロンプトの最適化では、AI が質問の意図を正しく理解できるよう、入力文を分かりやすく調整し、期待する出力や制約条件を明確にすることで、より精度の高い回答を引き出せるようにサポートします。加えて、横断するシステムの確認ポイントの標準化、ナレッジ活用した対応力の強化、運用業務の継続的な改善などの支援も行います。

CTC は、創立以来、米国をはじめとする先端技術を活用した製品やサービスを組み合わせ、大規模システムの開発、構築とともに、運用保守サービスを提供してきた長年の経験とノウハウを活かし、2023年に StageCrew™を開発しました。これまで、データの保存期間、ユーザ数に応じたメニューを用意しており、今回のマルチモーダル AI 連携機能のリリースとともに、ナレッジ共有や人材育成に特化したエンタープライズ「Knowledge Edition」も追加しました。

今後お客様が変化するビジネス環境に柔軟に対応できるよう、システム開発や運用を高度化、効率化するサービスを提供し、持続的な事業成長を支援していきます。

<StageCrew™のイメージ>

サイト、チャート、ツール横断の解析作業を、マルチモーダルAI でアシスト



※ 記載されている商品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

※ 掲載されている情報は、発表日現在の情報です。最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。

以上

<報道機関からのお問い合わせ先>

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

広報部

E-mail: press@ctc-g.co.jp